

# 「医療従事者における人体標本を用いた実習の必要性」 についての調査

坂本 宏 史

成 昌 燮

野瀬 朋 宏

河 戸 誠 司

川 手 豊 子

A study on the needs of practical training  
for healthcare professionals,  
using anatomical specimens of human bodies

SAKAMOTO Hiroshi,

SEI Syo-Syo

NOSE Tomohiro,

KAWATO Seiji

KAWATE Toyoko

## 抄 録

健康科学大学主催の医療従事者を対象とする解剖実習セミナー参加者に対して、セミナーの満足度、改善すべき点、必要性などについて2回のアンケート調査（A：セミナー当日とB：一週間後）を行った。アンケートAでは、主にセミナーについての満足度、要望について調査し、アンケートBでは、回答者の属性、セミナーの必要性について調査した。アンケート結果から、参加者は、セミナーに満足したこと、続けて参加したいと思っていること、貴重な機会であることが明らかになった。

キーワード：解剖セミナー

医療従事者

アンケート調査

健康科学大学(本学)では、山梨大学医学部の協力を受け、平成16年から解剖実習セミナー(医療専門家のための人体解剖学講習会)を毎年開催している。

今回、解剖学実習セミナー参加者を対象に、アンケート調査を行い、医療従事者における人体解剖学実習の必要性について検討した。

## 医療専門家のための人体解剖学講習会

このセミナーは、主に山梨県内の医療専門家を対象に、地域貢献の一環として、生涯学習(リカレント学習)の場を提供し、臨床上必要な解剖学の知識の向上を図ることを目的に、平成16年から3日間の会期で年に、1-2回開催されて来た。

各参加者が日頃感じている人体の構造に関する疑問について、標本観察しながら数名のセミナーのスタッフが解説する形式を取っている。また平成21年度からは、スタッフによる解剖学に関連した1時間程度の講義を各回の2日目に行っている。

## 方 法

今年度アンケートは2回(A, B)行った。アンケートAの用紙は各参加者が実習参加した日に配布し、実習終了日に回収した。アンケートBは、実習終了後1週以内に、e-mailで連絡可能な参加者に対して協力依頼をして、e-mailの返信として回収した。

アンケート項目

アンケートA(全て自由記述)

解剖実習セミナーにご参加いただき、ありがとうございます。

今後、このセミナーをより良い、参加しやすいものになりたいと考えております。皆様のご感想をお聞かせいただきたくお願い申し上げます。

以下のアンケートにお答えください。ご協力お願いいたします。

1. 開催頻度と開催時期のご要望があれば、ご記入ください。
2. プログラム内容に関するご意見、ご要望をご記入ください。
3. 今後に、興味がある、観察したい部位をご記入ください。その理由も合わせてご記入ください。
4. 指導方法に関するご意見・ご要望をご記入ください。
5. 全体を通した感想をご記入ください。

アンケートB（設問4のみ選択、他の設問は全て自由記述）

先日は、解剖学セミナーへのご参加ならびに、アンケートへのご協力をありがとうございました。

ところで、今回、本セミナーに対する先生方のお考えを伺って、このようなセミナーが広く認められて、もっと多くの関係施設で開催できるようになればよいと考えるようになりました。

そこで、先日いただいたアンケートに加えもう少しくわしい情報を頂いて、集約した上で、発表する機会を見つけたいと思っています。

つきましては、お忙しい中大変恐縮ではございますが、以下に追加のアンケートの文章をお送りいたしますので、ご協力いただけましたら、大変幸いに存じます。今回いただいた回答は、個人が特定されない形で処理され、皆様の個人情報が出たり、上述の目的以外に使用されたりすることはありません。この調査についてご不審の点が生じ、あるいは、調査結果について興味をもたれた場合には、坂本（健康科学大学理学療法学科）までお問い合わせください。

また、このメールが届かない先生方もいらっしゃるかもしれませんので、今回参加された方に、本件につきましてお声をかけていただけたらありがたく存じます。以上、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○ご自身について（解答したくない項目は、記入しなくて結構です。）

性別：

年齢：

職種：

経歴（何年目）：

○解剖学セミナーについて

1. なぜこの解剖学セミナーに参加したいと思いましたか。
2. 日頃、どのような時に解剖学の必要性を感じますか。
3. 今回セミナーで特に、確認したかったこと、知りたかったことは何ですか。
4. セミナーを終えて上の3の事項の達成度は次のどれに当たりますか。  
(A：達成できた。 B：ほぼ達成できた。 C：やや不満。 D：達成できなかった。)
5. 今回の成果を具体的に書いてください。

以上、ご協力ありがとうございました。

## 参加者の情報

- 1日のみの参加 32名 (初日だけ参加)
- 2日間の参加 11名
- 3日間の参加 18名

## 結果

### アンケートA

参加者全員 (61名) から回収された。(回収率100%)

### 設問1. 開催頻度と開催時期

設問で「要望がある場合に記入すること」を促したため、記入のないアンケートは、現状で満足と解釈した。図1に示す様に、ゴールデンウィーク (GW) 開催の希望が多かった。



図1

\*年2回開催して欲しい25名の中で、開催時期は、ゴールデンウィーク (GW) と夏: 1名、春と秋/冬: 4名の希望があった。

### 設問2. プログラム内容に関する意見、要望

- ・満足または良い 47名 (特に、講義が良かった。 7名)
- ・講義を聴きたかった。 7名
- ・実際に解剖をしたい/解剖の過程を見たい。 3名
- ・水平断の四肢標本を観察したい。
- ・X線写真と実物の比較が良い。
- ・体位と臓器の関係を確認したい。

### 設問3. 今後、興味がある、観察したい部位

解答は、参加者により多岐に渡った。多かった順にキーワードを並べると次のようになった。

- ・体幹の筋/脊柱規律筋 7
- ・脳・脊髄 5
- ・末梢神経 5
- ・内臓 5

- ・ 脊柱 4
- ・ 腰部 4
- ・ 関節の詳細 3
- ・ 手 2

#### 設問4. 指導方法に関する意見・要望

- ・ 満足または良い 56名（説明が丁寧、分かりやすい 27名を含む）  
1名ずつではあるが、以下の意見もあった。
- ・ 講義を聴きたい。
- ・ もっと内部を見たい。
- ・ 声かけをして欲しい。
- ・ 参加者がグループ発表してはどうか。
- ・ 脳の説明時間を設けるなど、細かいスケジュールで実施。

#### 設問5. 全体の感想

- ・ また参加したい／次回も参加したい。 18名
- ・ 勉強になった。 7名
- ・ スタッフの対応が良かった。 6名
- ・ 書物から得た知識を確認できた。 5名
- ・ 貴重な機会 6名
- ・ 疑問が解決した。 4名
- ・ 臨床に活かしたい。 7名
- ・ 参加者同士の交流が良かった。 2名
- ・ 勉強不足を実感した。 3名
- ・ 頑張る気持ちが湧く。
- ・ イメージが改まった。
- ・ 複数の標本が見られて良かった。
- ・ 標本に特徴の目印があるとありがたい。

#### アンケートB

セミナー参加者61名のうち、電子メールで連絡可能であった50名に送付し18名から回収された。（回収率36%）

#### アンケート結果

##### （1）回答者の情報

性別：男12名、女6名

年齢：

20代：5名

30代：7名

40代：5名

職種：

理学療法士：10名

鍼灸師：7名

作業療法士：1名

経歴（何年）：

5年未満：6名

5年以上10年未満：6名

10年以上20年未満：4名

20年以上：2名

## (2) 設問

### 1. 解剖学セミナーに参加した理由

- ・能力向上／知識をつけたい：6名
- ・治療対象の構造を確認したい：5名
- ・書物の知識を実物で確認：4名
- ・立体構造を理解するため：3名
- ・学生時代の実習に不満：2名

### 2. 解剖学の必要性を感じる時

- ・診療で患者に触れる際：6名
- ・障害・愁訴の理解：4名
- ・治療法を考える時：6名
- ・理学療法以外の科目を教える時：1名
- ・常に：1名

3. 今回特に、確認したかったこと、知りたかったこと

(解答中のキーワードを、出現頻度の高い順に並べた。)

- ・各部の筋：10回
- ・腕神経叢：8回
- ・末梢神経の走行：6回
- ・内臓の配置：3回
- ・交感神経節：3回
- ・各部の関節：3回
- ・中枢神経：2回
- ・筋の神経支配：2回
- ・鍼灸のツボに対応する組織の確認：1回
- ・足底：1回

4. セミナーを終えて上の3の事項の達成度

(A：達成できた。 B：ほぼ達成できた。 C：やや不満。 D：達成できなかった。)

図2で示す様に、ほとんどの回答者(83.3%)が、「達成または、ほぼ達成できた」と回答した。

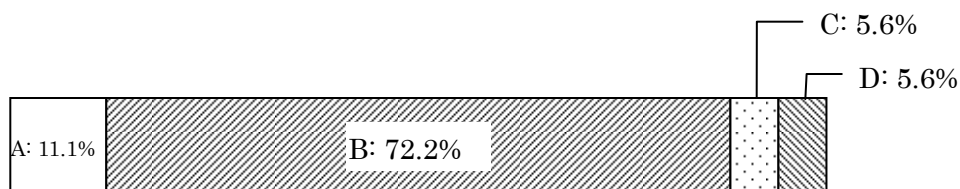


図2

5. 具体的な成果

(解答中に見られた記述を、頻度順に以下に並べた。)

- ・各部の筋を確認できた：8回
- ・各部の末梢神経を確認できた：7回
- ・腕神経叢を確認できた：3回
- ・各部の関節が理解できた：2回

以下は各1回ずつ。

- ・内臓の構造が理解できた
- ・星状神経節が理解できた
- ・男女や、年齢による構造の違いが確認できた
- ・針治療の意味が再確認できた
- ・立体的な理解ができた
- ・動脈と静脈の違いが明確になった

- ・ほぼ目的が達成できた
- ・他の職種の参加者と知り合えた

6. アンケートBの回答の e-mail に沿えて、以下のようなコメントが寄せられた。

- ・貴重な体験
- ・続けてほしい
- ・より多くのセラピストが経験できるとありがたい
- ・課題が残ったので、また参加したい

## 考察

現状のわが国では、人体標本を使う解剖学実習の開催には制限が多く、本学のような、医学部・歯学部を持たない、医療系大学が単独で開催することは不可能である。現行の死体解剖保存法によると、所轄の保健所長の許可を受けた、医学に関する（医学部・歯学部）大学の施設内で、解剖学の教授、准教授が（指示し）行うものである。本学の人体解剖セミナーも山梨大学医学部の協力を得て、開催されている。

一方、平成16年に第1回目のセミナーを開催した際の参加者は十名あまりであったが、今回のセミナーには61名の参加者があった。最初の数回は、3日間参加できることを参加の条件にしていたことも、人数の制限に影響していたと考えられるが、最近では、一度セミナーに参加した後、続けて参加する機会が多くなり、新たに参加する人と合わせ増加傾向にある。

また、参加者のほとんど（56名／61名）が、実習に満足していたという、アンケートの結果からも明らかなように、少なくともセミナーに参加した医療従事者には本学が開催しているような、解剖実習セミナーが役に立っていると思われる。

回収率が低かったアンケートBの結果ではあるが、本セミナーに参加した医療職は、理学療法士、10／18、鍼灸師7／18、作業療法士1／18であった。山梨県の理学療法士会と作業療法士会には、同時に同様な方法で案内を出しているが、参加人数を見る限り理学療法士の解剖実習の需要が高いようである。本学から、鍼灸師の団体に対して案内を出していないが、本セミナーのスタッフの知り合いということで参加した方々が毎年参加されていることに加え、その参加者の紹介での新たな参加があった。鍼灸師の診療には、解剖実習が重要である事が伺える。

今回、セミナーに参加した方々が、問題意識の高い、やや特別なグループであるとも考えられるが、人体解剖実習は、大学や専門学校を卒業してからも、医療従事者に必要とされていると結論される。

また、最近、医療関係の大学や専門学校が急増したことが一因と考えられるが、大学・専門学校の解剖学の教育の課程を、人体解剖実習（見学）をせずに終了する場合もあり、



解剖学の教科書など、書物からの知識だけを頼りに、不安を抱えながら診療している場合もあるようである。

今回、アンケートをまとめて、回収率の結果から明らかなように、実習当日にアンケートの協力を依頼することが回収率の改善につながると考えられる。また、次回のアンケートでは、学生時代の解剖実習の形態の調査、他施設で開催された、今回と同様なセミナーへの参加の有無またその感想なども確認したい。

## 参考文献

---

死体解剖保存法

(財)調査委員会(佐藤巖、加藤征、大谷修、松村讓兒、平田和明)編、アンケート「コメディカルの人体解剖実習についての実態調査」2004、日本財団図書館 (<http://nippon.zaidan.info/index.html>)

## Abstract

The purpose of this study is to investigate the needs of practical training for health care professionals, using the anatomical specimen of the human body. Two surveys were performed, targeting participants of the training seminar on anatomy organized by Health Science University in May 2013. The first survey was administrated on the day of the seminar. Participants answered questionnaires regarding their level of satisfaction with the seminar and their opinion on areas that need improvement. The second survey, designed to investigate the participants' background information, their perceptions regarding the necessity of such training seminar, was followed one week later. The response rate was 100% for the first survey whereas 18% responded to the second survey. The study revealed that the participants were satisfied with the seminar; further, many of them considered it as a valuable learning opportunity and wished to participate in such seminars continuously.

Key words : health care professionals

seminar on anatomy

survey questionnaire

